

## 公表 事業所における自己評価結果(放デイ)

事業所名		にじの丘				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6人		利用児の人数や障害特性、活動内容に応じて、活動スペースを柔軟に区切りながら支援を行っている。集団活動と個別活動が重ならないよう時間帯や場所を調整し、安全で落ち着いた環境づくりを心がけている。	活動が重なる時間帯にはスペースが限られる場面もあるため、事前の活動計画や配置の工夫をさらに進め、より余裕をもった環境調整に努めていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6人		利用児の状態や医療的ケアの有無、当日の体調等を踏まえ、職員配置を調整している。必要に応じて個別対応ができる体制を整えている。	急な体調変化や欠員時にも安定した支援が行えるよう、複数職員が子どもの状況を把握できる体制づくりを強化していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5人	1人	子どもにとって分かりやすい環境となるよう、活動場所の明確化や視覚的配慮を行っている。障害特性に応じてバリアフリーや安全面への配慮を行っている。	設備面での制約もあるため、物品配置や導線の見直しを行い、より安心して過ごせる環境づくりを継続していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6人		清掃や換気を日常的に行い、子どもが安心して過ごせる環境を維持している。活動内容に応じて空間を使い分けしている。	活動後の環境リセットをより徹底し、常に快適な空間を保てるよう職員間で意識を共有していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6人		子どもの状態に応じて、個別の部屋や落ち着ける場所を使用できるように配慮している。無理に集団参加を求めず、その子のペースを尊重している。	個別対応が必要な場面を職員全体で共有し、より早い段階で環境調整が行えるようにしていく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	2人	5人	日々の振り返りやミーティングを通じて、支援内容の見直しや改善を行っている。職員が意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけている。	振り返りの質に差が出ないように、評価視点を整理し、改善につながる話し合いを継続していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6人		保護者向け評価表を通じて意見を把握し、支援や運営の改善に活かしている。	評価結果を職員間でより具体的に共有し、改善内容を可視化していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6人		職員同士の話し合いや日常的な声掛けにより、意見を業務改善に反映している。	定期的な意見集約の機会を設け、記録として残す仕組みづくりを検討する。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6人		第三者の視点を取り入れ、事業所運営の見直しにつなげている。	評価結果をより具体的な改善計画に落とし込み、継続的な改善に活かす。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6人		外部研修や法人内研修を活用し、職員の専門性向上に努めている。	研修内容を支援実践に結びつけるため、共有や振り返りを強化する。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6人		支援内容を整理し、分かりやすい形で支援プログラムを作成・公表している。	内容の定期的な見直しを行い、実態に即したものにしていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6人		子どもと保護者のニーズを丁寧に把握し、客観的な視点で計画を作成している。	アセスメント結果の共有をさらに徹底し、支援の統一を図る。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6人		複数職員で情報を共有し、子どもの最善の利益を考えた検討を行っている。	意見交換の記録を残し、検討過程を明確にしておく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6人		計画内容を職員間で共有し、日々の支援に反映している。	計画と実践のズレが生じないように、定期的な確認を行う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6人		行動観察や日常記録を活用し、子どもの状況を多面的に把握している。	記録の視点を整理し、評価の質を高めていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6人		本人支援・家族支援・移行支援・地域支援を意識した計画作成を行っている。	各支援項目の関連性を整理し、より具体的な支援内容に落とし込む。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4人	2人	職員間で意見を出し合い、チームで活動を立案している。	立案過程を記録し、継続的な改善につなげる。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4人	2人	子どもの興味や成長に応じて内容を見直している。	新しい活動の検討を定期的に行う。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6人		子どもの状況に応じて活動形態を柔軟に組み合わせている。	活動選択の根拠をより明確にしておく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6人		役割分担を確認し、チームで支援を行っている。	短時間でも必ず共有できる仕組みを整える。

	21	支援終了後は、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4人	2人	支援後に気づきを共有し、次回支援に活かしている。	振り返りの時間確保を工夫する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6人		日々の支援記録を徹底している。	記録を分析し、改善につなげる視点を強化する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6人		定期的に計画を見直している。	見直し理由を明確に残す。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6人		複数の活動を組み合わせさせて支援している。	活動バランスの確認を行う。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6人		選択肢を提示し、子どもの意思を尊重している。	選択の機会をさらに増やす。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6人		子どもの状況を理解した職員が会議に参加している。	情報共有の質を高める。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6人		必要に応じて関係機関と連携している。	定期的な連携機会を検討する。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6人		送迎や行事等の情報共有を行っている。	連絡方法の整理を行う。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5人	1人	過去の支援内容を把握し、支援に活かしている。	引き継ぎ内容を整理し、よりスムーズな連携を図る。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6人		学校卒業後に障害福祉サービス等へ移行する際には、それまでの支援内容や子どもの特性、配慮点について整理し、必要に応じて関係機関へ情報提供を行っている。	引き継ぎ内容の整理方法を統一し、より分かりやすく正確な情報提供ができるよう様式の見直しを行っている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5人	1人	地域の児童発達支援センターと連携し、必要に応じて助言や情報提供を受け、支援の質向上につなげている。	連携の機会が限定的になりやすいため、定期的な相談や情報交換の場を持つことを検討していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4人	2人	地域イベントや外出活動等を通じて、地域の子どもや施設と関わる機会を設けている。	交流の機会が限られる場合もあるため、無理のない範囲で参加できる活動の検討を進めている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1人	5人	地域の協議会等に参加し、制度や地域課題についての情報収集を行っている。	参加目的を明確にし、得た情報を事業所内で共有し、支援に活かせる体制を整えていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6人		送迎時や連絡帳等を通じて、日々の子どもの様子を保護者と共有し、共通理解を図っている。	忙しい時間帯でも必要な情報が確実に伝わるよう、伝達方法の工夫を検討する。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5人	1人	保護者からの相談に応じ、必要に応じて助言や情報提供を行っている。	家族支援を体系的に行うため、研修や情報提供の機会を計画的に設けていく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6人		運営規程や支援内容、利用者負担等について、保護者に丁寧に説明し、理解を得ている。	説明内容を分かりやすく整理し、必要に応じて書面での補足説明を行っている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6人		支援計画作成時には、子どもや保護者の意向を丁寧に確認し、最善の利益を考慮した検討を行っている。	意思確認の記録をより明確に残し、支援に反映されていることが分かる形にしている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6人		放課後等デイサービス計画を示しながら説明を行い、保護者の同意を得た上で支援を実施している。	説明時の理解度に差が出ないように、説明方法や資料の工夫を進めていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6人		保護者からの子育てに関する相談に対し、面談や日常のやり取りを通じて適切に対応している。	相談内容の整理と共有を行い、継続的な支援につなげていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6人		保護者会やイベント等を通じて、保護者同士が交流できる機会を設けている。	参加しやすい形や方法を工夫し、より多くの保護者が関われる場づくりを検討する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6人		苦情や要望があった際には、迅速かつ丁寧に対応し、職員間で共有している。	対応内容の記録を整理し、再発防止や業務改善により活かしていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6人		通信やHP、SNS等を活用し、活動内容や行事予定等の情報を発信している。	情報の更新頻度や内容を見直し、より分かりやすい発信を行っている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6人		個人情報の管理に十分配慮し、書類の保管方法や取扱いについて職員間で共有している。	定期的な確認や研修を行い、個人情報保護意識の維持向上を図る。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6人		障害特性に応じて、分かりやすい説明や伝達方法を工夫している。	個々のニーズに合わせた伝達手段をさらに検討していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2人	4人	地域イベント等への参加を通じて、地域とのつながりを意識した運営を行っている。	安全面に配慮しつつ、地域との交流機会を徐々に増やしていく。
46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6人	1人	事故防止・緊急時・防犯・感染症対応マニュアルを整備し、訓練を実施している。	訓練内容の振り返りを行い、マニュアルの見直しにつなげていく。	

非常 時等 の対 応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6人		BCPを策定し、災害を想定した訓練を行っている。	訓練内容の実効性を高め、非常時にも落ち着いて対応できる体制づくりを進める。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6人		服薬や医療的配慮について事前に確認し、職員間で共有している。	情報の更新漏れがないよう、確認方法の見直しを行う。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6人		医師の指示書に基づき、アレルギー対応を徹底している。	複数職員で確認する体制をさらに強化する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6人		安全計画を作成し、研修や訓練を通じて安全管理を徹底している。	計画内容を定期的に見直し、現場に即したものにしていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6人		安全確保に関する取り組みについて、保護者へ周知している。	周知方法を工夫し、より理解を深めてもらえるよう努める。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6人		ヒヤリハット事例を共有し、再発防止策を検討している。	事例の蓄積と分析を行い、予防的な視点を強化する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6人		虐待防止研修を実施し、職員の意識向上を図っている。	日常的な振り返りを行い、早期発見・防止につなげる
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6人		身体拘束が必要となる場合の判断基準を明確にし、事前に説明と同意を得た上で計画に反映している。	拘束に至らない支援方法の検討を継続し、最小限となるよう努める。
総 評	本事業所では、子ども一人ひとりの尊厳を大切に、安全で安心できる支援を行うとともに、職員・保護者・関係機関との連携を重視した運営を行っている。今後も自己評価を通じて課題を明確にし、継続的な改善に取り組んでいく。					